

2024年度 ケアハウスネバーランド事業計画

<事業の種類>

老人福祉法によるケアハウス事業

<運営方針>

- ・ 入居者の自立性を尊重し、自立支援、自己選択ができる環境を専門の知識を持って創り上げる。
- ・ 入居者の日頃の生活を注意深く見守り、利用者本位の個別処遇を行うことにより、信頼関係を深める。
- ・ 入居者間の調和を保ち、落ち着いて生活して頂ける環境作りに努める。

<事業所の強み>

- イ・ケアハウスネバーランドには各個室専用の私物庫があり、使用しない物品を居室内に置くことが無く、広々と居室を使用できる。
- ロ・外出は、所定の用紙に記入すれば、自由となっているので、習い事や家族との外食などを楽しむことができる。
- ハ・他部署合同での外出や外食を実施することにより、ネバーランドの他事業所のことを知る機会となり、他入居者や他利用者の交流の場となる。
- ニ・インフルエンザや新型コロナウイルス感染症の予防接種を促しており、流行時期には必要時以外の訪問者は避けてもらい、ヘルパーや業者の訪問時には常時、検温と体調確認を行い、書面に記録していただくことにより感染予防に努めている。
また、近隣の感染状況などを把握し、手洗い、手指消毒、うがい、館内の手すり、椅子、ドアノブなど入居者が触れる箇所の消毒を毎日行っている。
- ホ・年代の近い入居者同士の話も盛り上がり、居室間の訪問などにより、友好関係ができやすい。
- ヘ・夜間緊急時、ナースコールの対応をしているので、必要時には家族へ連絡することにより、入居者、家族共に安心して生活を送ることができる。
- ト・独居で自炊ができなくなった場合でも、食事は施設で提供があるため、自炊しなくてもよく、自炊による火事の心配がない。
- チ・体を使った体操、脳トレーニングなどのレクリエーションもあるため、ケアハウス生活の余暇活動が充実している。
- リ・毎朝体調確認及び感染拡大防止対策として、検温を行っている。また、希望入居者には血圧測定を行い、必要に応じて、受診を勧めている。

<機会>

- ヌ・在宅での独居の高齢者も増えており、誰かの見守りを必要としている家族もある。
- ル・ネバーランド付近に家族が住んでいることにより、家族も本人も安心して生活できる。

<弱み>

- ヲ・他法人のケアマネジャーがサービス付き高齢者住宅が空床というイメージやシェアハウス等料金だけは安いという理由だけで家族に紹介してしまうことがある。
- ワ・ケアハウス職員の変更もあり、入居者の状態を把握できておらず、必要な突発的な状況があった場合に対応が難しい。

<脅威>

- カ・ケアハウスの情報を知る利用者は少なく、居宅ケアマネジャーもケアハウスは満床というイメージを持っている為、空室があるサービス付き高齢者住宅に多少高額でも入居される方がいる。
- ヨ・介護が必要な方も多く、自立型ケアハウスの入居対象者が減少している。
- タ・サービス付き高齢者住宅の料金が価格競争により安くなっている。
- レ・核家族化により、保証人不在や金銭的に難しい入居希望者が増加している。
- ソ・様々な介護サービスが増えたことにより独居での生活継続が可能になっている事例が増えており、自立型のケアハウス入居対象者が減少している。

<事業計画>

(1) 生活・健康

- ・ 日常生活における入居者の悩み・問題等を職員に話して頂けるような関係・環境作り（居室訪問・言葉掛け）に努める。
- ・ 健康状態が損なわれた時には、速やかに病院受診を促し、早期治療を行うことができる援助を行う。また、家族と必要に応じて面談を行い、要望を伺う。面談を行った際は、面談記録を作成する。
- ・ 入居者自身の健康状態把握のため、年1回の健康診断を実施する。
- ・ 感染症予防から、インフルエンザ予防接種の案内や感染症に気を付け、年間を通じて外出から帰園された際は、必ずうがい・手洗い・手指消毒をする。
- ・ 玄関の白板に感染症に対する注意点を書き、訪問者の検温、体調確認を行う。
- ・ 朝礼時に健康確認を行い、気分不良者には家族に連絡し、受診を勧める。
- ・ 咳エチケットを生活習慣とし、マスクの着用、手指消毒といった感染予防・健康管理を啓蒙する。
- ・ 夜間に入居者の異常があった場合、特別養護老人ホームの夜勤職員からケアハウス職員へ連絡相談し、すぐに家族連絡できるように、緊急時対応を整えている。
- ・ 入居者だけでなく、家族と職員との信頼関係を作り、相談しやすい、相談されやすい関係を作る。

(2) 食事

- ・ 馴染みの深い音楽を流す、季節の植物を置くなどして、落ち着いた空間、季節の流れを感じ取れる空間を演出する。
- ・ 栄養士による嗜好調査に基づき、入居者の嗜好や希望食事形態等を厨房と連携して、柔軟に対応する。
- ・ 誕生日には入居者の希望のメニューを昼食時に提供する。
- ・ 感染症予防の為に、食堂入り口にて消毒液で手指の消毒を行ってから食事をする。
- ・ 体調不良者、熱発者には自室に食事を配膳することにより、他入居者への感染症の蔓延を予防する。

(3) 残存機能・生活意欲の維持の向上

- ・ 体を動かしたり、脳を刺激するクラブ活動を行い、楽しみながら機能低下を予防する。
- ・ 毎月の行事を行い入居者に季節感のある生活を過ごしていただくと共に生活意欲の向上を図る。

<日課>

時 間	項 目	内 容
7 : 4 0	朝 食	
8 : 5 0	デイサービス送り	デイサービス利用者の送り
1 0 : 0 0	クラブ活動	健康体操・見聞クラブ・楽々クラブ等
	映画鑑賞会	日曜日（第1）9 : 3 0 ~
1 2 : 0 0	昼 食	行事食・季節食の実施
1 4 : 0 0	健康相談	血圧測定、検温など体調確認
1 5 : 0 0	おやつ	おやつの提供（木・土曜日）1 5 : 0 0 ~
1 6 : 0 0	デイサービス迎え	デイサービス利用者の迎え
1 7 : 3 0	夕 食	

<行事計画>

4月・・・花見ドライブ	10月・・・ハロウィンパーティー
5月・・・八十八夜 新茶おやつ	11月・・・園芸
6月・・・花の折り紙作り	12月・・・クリスマス会
7月・・・七夕飾り	1月・・・縁日（初詣）、すごろく作り
8月・・・ネバーランド花火大会	2月・・・節分会
9月・・・ケアハウス敬老会	3月・・・観梅ドライブ

<年間目標>

平均入居者数を 13名 年間平均4446人(13人×342日)
延べ利用居室数を13室とする。

2024年1月現在 平均入居者数 12名・平均居室数 12室

2024年度は修繕会社と日程調整を速やかに行い、居室修繕期間を23日とする。

<目標設定の根拠>

ケアハウスは4部屋が職員寮となり、満室で20名となるが、二人部屋を1人で使用している方もおられる。

二人部屋を一人で使われている方は2024年1月現在、2名入所されており、入居者は、12名(12室)である。

空室状況の問い合わせもあるが、保証人不在や生活保護による金銭面での不安な方の問い合わせが多い。

地域包括や病院等に営業活動を実施する事により、入居者が8%増加する見込みであるため、目標人数を13室(13名)とした。

<目標達成の具体策>

他事業所のケアマネジャーに営業を行った際、ケアハウスについて間違った理解をされていた。(サービス付き高齢者住宅と同じものだと思われていた。)

2024年度は正しくケアハウスについて理解して頂く為に、わかりやすいパンフレットとケアハウス紹介動画を作成し、営業活動時に活用するようにする。そして、他部署の職員が営業に出る際にも、ケアハウスのパンフレット持参してもらえるように、協力依頼をする。

新規入居者の確保だけでなく、現在入居中の利用者が長くケアハウスでの生活が継続できるように、毎朝、体調確認(毎日の検温)を実施し、早期受診により入院者を出さない様に努める。入居者の心身状態を細かく報告する事により、家族との連携も強化する。

<対策>

[SWOT分析脅威、ヲ、タより]

- ・当法人のケアマネジャーに他事業所訪問時にケアハウスのパンフレットを持って行ってもらう。
病院にはパンフレットを置いていただき、3か月に1回、パンフレットの減り具合の確認と再度のパンフレットの追加をお願いする。
- ・要介護認定の下りている方でも、介護保険サービスを利用しながら入居できること、実際に入居者がいることを他事業所のケアマネジャーや見学に来た家族に伝える。

[SWOT分析の強み、イ、ロ、へより]

- ・居室に風呂や私物庫がある事を見学者や、他事業所にアピールする。
- ・体調不良がある場合は、ナースコールで知らせてもらう。

救急搬送付き添いについては、家族に同行してもらえる様、日中はケアハウス職員、夜間は特別養護老人ホームの夜勤職員が家族に連絡し、お願いします。

- ・入居者の状態に合わせて介護保険のヘルパー等を継続（新規）利用しながら、ケアハウス生活を継続できる様に支援する。

[SWOT分析機会、ハ、ホ、トより]

- ・ケアハウスのおやつ提供時に希望者にカフェジンのコーヒーを(有料)提供し、カフェジン又は、食堂でおやつの時間においしいコーヒーが飲めるようにする。
- ・感染予防の為、付近の散歩など施設周りの散歩を基本に入居者の体力、下肢筋力のレベル低下を予防し、閉じこもりを防止すると共に、入居者の健康維持につなげていく。
- ・付近の散歩を定期的に行うことにより、季節を感じたり、地域の方と会話したり、外部刺激による心身、脳機能低下予防をしていく。
- ・見学者には、様々なレクリエーション活動、余暇活動が充実していることを伝える。また、現在利用している介護保険サービスについても、継続して利用できることも伝える。
必要なサービスがあれば、法人内のサービスも紹介し、管理者に繋げていく。

[SWOT分析機会、リより]

- ・定期的な居室訪問を行い、入居者との信頼関係を作り、医療面や生活面等の相談をしやすい雰囲気をつくる。
また、家族訪問時には、入居者の近況の生活状況を知らせる事により、家族との信頼関係も構築していく。

[SWOT分析弱みワ、カより]

- ・職員が、サービス付き高齢者住宅などとの違いを把握し、料金が安い、居室が広いなどケアハウスの良い点（介護認定を受けていれば、法人内のデイサービス、ショートステイを利用できる等）、施設全体でサポートできることを見学者に説明していく。
- ・施設内の職員研修を通して、事故防止、虐待防止、感染症などの知識を身に付け、突発的な出来事にも対応できるようにしていく。
ケアハウスは職員全員同時勤務がない為、月に一度のケアハウス会議や申し送りノートなどを活用し、全ての職員が同じ対応でサービスを行えるように情報を共有する。